



きらい★きくにし

文責 校長 佐藤 正貴

あけましておめでとうございます。

今年もよろしくお願いいたします。

さて、校長という立場になって、それまでと大きく変わったことは、教職員以外の方の話を聞く機会が増えたことです。違う業種の方の話は、私にとって新鮮であり、学校経営においても参考となることが多くあります。そんな中、学校も他の業種も同じような傾向にあるのが、人材不足や人材育成の課題です。報道等でも話題となることがしばしばありますが、近年の熊本県教員採用選考考査の倍率は、1.2～1.3倍で推移しています。ブラック企業と言われたり、超過勤務時間等の問題が取り上げられたりと、何かとマイナスイメージが先行する中で、今の若者が教員を目指さなくなることも仕方がない部分もあるかと思っていました。しかし、意外にも他の業種でも同じような課題を持っていることに驚きを持ちました。

そこで、今の若い世代で、将来教員になりたいと思っている割合はどのくらいなのかということ調べてみました。様々な資料を調べてみましたが、概ね小中高生の傾向としては、教員になりたいと回答している割合は高い傾向にあります。しかし、現在、就職を控えている大学生になると、その割合は下がっている傾向にありました。「安定した職業」「やりがいがある」「あこがれがある」「自分だったらこんな先生になりたい」「人のためになることをしたい」というような思いが、実際に学校現場の実情が見えてきた世代には、割にあわないという判断につながっているのかもしれない。

学校現場の課題は変わりません。なり手がいない状況はこれからも続くと思われます。これを「現状から仕方がない」で終わらせるのか「現状からの脱却」を目指すのかでは10年先、20年先の教育現場に大きな違いが表れると思います。今の小学生、中学生、高校生が、教員という職業に将来の希望を見出している姿が、大学生になってからも続いていくように改革を進める必要があると思っています。魅力ある職場づくりは、児童の心身の育成に大きく影響します。次年度は、改革の年、新たなことに挑戦する年にできればと考えています。保護者の皆様、地域の皆様お知恵を借りながら、よりよい教育活動の推進につなげていきたいと考えています。

改革や挑戦することの判断基準は、児童へのプラスの効果あり、マイナスの影響が少ないこと、全員が参加できる状況であることです。

門松づくり、お世話になりました



昨年の12月14日(日)の午後から、門松づくりが行われました。地域の方々やPTAの方々の温かい協力のお陰で、大変立派な門松が完成しました。当日は、気温も低く、寒い中での作業となりましたが、的確な役割分担と協働的な作業で、多分、予定よりも早く完成できたと思います。良き伝統は、今の子どもたちにもしっかりと伝わっていくと思います。本当にありがとうございました。「どんどや」もよろしくお願いいたします。

いきいき芸術体験教室



昨年の12月15日に「九州打楽器合奏団」をお招きして、芸術体験教室を実施しました。本物の芸術に触れることは、子どもたちの心と感性を育てることにつながります。子どもたちは、演奏に聴き入りながら、また、伴奏に合わせて歌ったり、踊ったりしながら楽しむことができていました。1つ気づいた事は、鑑賞のマナーです。静かに聞くことは、もちろんですが、演奏者の方々と一緒に楽しむ姿に、心の成長を感じました。

追記

今年度も残すところ3か月余りとなりました。登校日数で見ると50日程度です。すでに4分の3は過ぎています。残りの期間は、次の学年への準備となります。今の自分がやるべきことを1つ見つける！ やり続ける！ そんな期間にしてほしいです。